

最前列の女子学生



わたしは大学や専門学校で劇作や演技の講師をするようになって
ずいぶん経つ。授業を行う際に、わたしは学生たちと教卓を挟んで向
かい合うが、わたしは長いこと、教室で以下のようなことがあったら
さぞ楽しいだろうなあと夢想しながら授業をしているが、そういう機
会はまだ一度も訪れないままである。

最前列、わたしが講義をしている教卓の真ん前に一人の美しい女子
学生が座っている。彼女は講義をするわたしにさりげなく何度も
ウインクを送ってくる。よく見ると、ウインクするその女子学生の眼
には「♡マークと「スキー」という文字があるのが見える。わたしは、
それに気付き、ちょっと戸惑いながらも講義を続ける……。

そんな夢想(妄想か)をしているわたしをアナタは「アホか!」と思
うだろうか。しかし、世にある教鞭を執る男性教員の小さな夢がこ
こにはある。そんなことがあったらどんなにか授業が楽しいことか!
もっとも、この夢想には元がある。「アイガー・サンクシオン」(一九七
五年)と「レイダース/失われたアーク《聖櫃》」(一九八一年)の二本
である。

わたしの記憶違いでなければ、この二本のアメリカ映画には、前記
のような場面がある。それぞれの映画において、美術の大学教授役の
クリント・イーストウッドと、考古学の大学教授役のハリソンフォー
ドは、大学の教室での授業中に最前列の女子学生にウインクを送ら
れ、その臉に「I love you」と書いてあることを発見するのだ。
教卓を挟んで学生と向かい合うわたしの脳裡に、これらの映画のその
場面が時々フラッシュバックする。

高橋いさを

〈劇団シヨーマ主宰 劇作・演出家〉